

当館は明石駅からほど近く、明石海峡を望む高台に位置しています。明石の歴史と文化を「自然環境と人々の暮らし」と題して八つのテーマで紹介する常設展示のほか、年3回の特別展と年4回の企画展を開催しています。また、ボランティアによる十二単・鎧の着付けやさをり織、エコバック作り等のワークショップも行っています。

SCHEDULE

春季特別展

1

4.8 | 土 | ▶ 5.21 | 日 |

いいから いいから
～長谷川義史の世界展～

「いいから いいから」シリーズなどの人気絵本の作者、長谷川義史さん。近年は絵本だけでなく、ショートアニメーション「ともだち8にん」のキャラクター原案や、MBS「ちちんぷいぷい」の「とびだせ! えほん」コーナーに出演するなど、幅広く活躍されています。



「だじゃれ日本一周」©長谷川義史/理論社

本展では、絵本原画をはじめ、下絵や構成ラフ原稿、道具類など制作過程を垣間見られるものや、思い出の品々や写真を集めた「秘宝」を展示。笑いと感動にあふれる絵本が生み出された背景や創作の秘密に迫ります。会場には絵本に描かれた昭和の風景を再現するジオラマや、絵本を読むことのできるコーナーも併設。様々な角度から長谷川ワールドを満喫することができます。子どもから大人まで楽しめる、おほかでユーモアたっぷりの長谷川義史の世界をどうぞご堪能ください。

企画展

2

6.10 | 土 | ▶ 7.9 | 日 |

郷土作家シリーズ 明石巡り
一作品でみる明石のええとこー(仮)

今年の郷土作家シリーズでは、「明石のええとこ(名所・名物)」をテーマに、明石を表現した作品にしばしば取り上げられる〈海〉(明石城・柿本神社周辺) (明石の名物) 等という題材に焦点を当てます。福田好克氏の油絵や伊藤太一氏の彫画をはじめ、郷土作家たちによる絵画や、陶芸、写真等多様な作品を通して、明石のええとこを巡ってまいります。作品に込められた郷土作家たちの思い(明石の魅力)をお楽しみください。



福田好克(明石海峡)平成20年



舞子焼 皿(鮎輪鯛皿)

夏季特別展

3

7.22 | 土 | ▶ 9.3 | 日 |

オバケ絵大博覧会

ぶんぱくがオバケ屋敷になっちゃった!? 江戸時代の「オバケ浮世絵」が博物館に大集合!! 現代よりも暗い夜の闇で起こる奇奇怪怪な出来事に対して、江戸の人々は、怨念にとらわれたお岩やお菊の亡霊、大江山に住むという酒吞童子、化け猫や九尾の悪狐、釣り上げるのも困難な大鯉、妖術で現れる大蝦蟇や、反対に人に妖術を授ける土蜘蛛などなど、さまざまな魍魎魍魎を見出していました。一方でそれらを退治する源為朝や宮本武蔵といったヒーローたちも登場し、その活躍に大喝采。中には、政治や時局の風刺が込められたものもあり、描く絵師たちの腕の見せどころとなっています。本展は葛飾北斎、歌川広重、歌川国芳などの絵師たちによる、想像力にあふれたオバケ浮世絵を展示します。もしかすると見覚えのあるオバケたちに会えるかも。この夏はぶんぱくでゾクゾクしてませんか。



葛飾北斎(百物語 さらやしき) 天保2(1831)年頃

企画展

4

9.16 | 土 | ▶ 10.22 | 日 |

明石藩の世界V
一明石藩の幕末維新一(仮)

本展は、明治維新150年を来年に控えた今、改めて幕末維新の動乱の中に明石藩を位置づける試みです。近年明石市に寄贈された明石藩関連資料から、激動の幕末維新期のようなすが分かる史料をご紹介します。あわせて、近年調査が進んだ旧明石藩領の地域史料(古文書)も展示します。幕末維新の動乱が、藩主や藩士といったサムライのみならず、地域社会の奮闘にも支えられて進んでいったことが見えてくることでしょう。



江戸時代最後の明石藩主・松平慶憲公肖像

企画展

5

11.3 | 金 | ▶ 12.10 | 日 |

発掘された明石の歴史展
一明石の近世一

今年で25回目になる「発掘された明石の歴史展」は、昨年の戦国時代の城館を取り上げた「明石の中世Ⅱ」に続き、江戸時代前期の明石の姿を紹介します。元和5(1619)年に將軍徳川秀忠の命を受けて、小笠原忠政が明石城を築き、城下町を整備しました。明石城内や周辺の武家屋敷跡等の発掘調査で出土した瓦や陶磁器類を中心に展示し、当時の明石の姿に迫ります。地中からよみがえった明石の歴史をご堪能ください。



明石城坤櫓(ひつじまるやぐら)

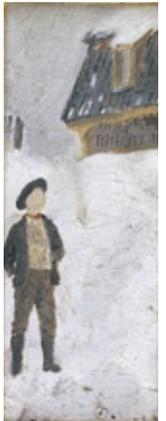
冬季特別展

6

2018 1.13 | 土 | ▶ 2.4 | 日 |

天才たちの青春
一世界の巨匠たちが子どもだったころ一

モネ、ピカソ、ムンク、ロートレック、クレー、岸田劉生、青木繁、平山郁夫... 世界の名だたる美術家たちは、いかにして巨匠と呼ばれるようになったのでしょうか。本展では世界初の本格的な子どものための美術館である、おかざき世界子ども美術博物館のコレクションより、国内外の有名美術家たちが子どもの頃に制作した作品をご紹介します。どんな巨匠にも、子ども時代があり、絵を描きはじめ、巨匠になるまでの過程が存在します。絵がうまくなりたいたい、もっと描きたい。これらの作品からは、多感な時期を生きた10代の作家たちの、真摯でひたむきな情熱を感じることができます。巨匠と呼ばれる前に描かれた、天才たちの芽生えをぜひご覧ください。



エドヴァルド・ムンク 《雪景色の中の少年》1881年

企画展

7

2.11 | 日 | ▶ 3.25 | 日 |

くらしのうつりかわり展

今では大きく様変わりした昭和時代のくらしの様子を、当時の道具や写真などで振り返ります。昔の道具や遊びの体験もでき、知る世代にはなつかしい、知らない世代はわくわくする、昭和レトロが学べる展覧会です。



足踏み式ミシン

※本展覧会は小学校の社会科・総合学習の参考展として、毎年多くの学校観覧でご利用いただいています。見学申込みは9月頃に開始予定です。詳しくはお問合せください。

常設展

明石の歴史と文化を「自然環境と人々の暮らし」と題して、「明石のあけぼの」「大昔の明石」「畿内への入り口・明石」「明石の焼き物」「明石の農業」「明石の漁業」「明石城と城下町」「のびゆく明石」の八つのテーマで紹介しています。